

国語分科会

I 研究のあゆみ

4月21日(月)	2025年度名教組教研オリエンテーション (2025年度名教組教育研究活動の進め方)	【教育館】
5月1日(木)	研究計画の検討	【教育館】
5月2日(金)	発表テーマ報告・集約	
5月30日(金)	発表内容の検討 (第2次実践の検討と研究のまとめ方)	【教育館】
6月～8月	レポートの検討・個別指導	
9月4日(木)	発表内容の検討(リハーサル)	【教育館】
9月20日(土)	第75回名古屋市小中特別支援学校教職員教育研究大会	【ウインクあいち】

II 研究協議の概略

話すこと・聞くこと、書くこと、読むこと、言語、書写といった様々な領域から、「未来を創ることばの力」の育成をめざした実践が22本のレポートにまとめられている。子どもたちの実態から身に付けさせたい「ことばの力」を明確にし、ICTの活用や仲間との対話、思考をまとめ、深めるための手立てが工夫された実践が多く報告された。

意見交流では、「子どもたちの未来のために、どのようなことばの力を、どのように育てていくか」をテーマに、活発な話し合いがされた。「AIの発達による様々な影響が予想されるこれからの時代こそ、言葉そのものを扱う国語科の果たす役割や使命が大きい」、「情報を正しく理解し、適切に表現することがこれからより一層求められる」といった、AI時代へと向かっていく未来に向けて大切にしたいことを共有する場となった。

III 今後に残された課題

- 子どもたちに対話や意見交流をさせることは大切であるが、活動ありきにならずに何をねらってどのように交流させるのかを指導者が意識する必要がある。
- 子どもの考えや指導方法が多様化していく中で、適切に子どもの変容を評価していくことが難しくなっていくので、計画した授業を評価の視点から見直していただくことが大切である。また、育成をめざすことばの力を身に付けられなかった子どもたちへ、その後どのように支援していくかまでを考えていく必要がある。
- これからより一層ICTやAIを授業で取り入れていくことになるので、どのような場面どのように使うかといった効果的な活用方法を模索していかなければならない。